

(別表第1の3)

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3870103250
法人名	株式会社 ユニケア
事業所名	アトラス馬木
所在地	松山市馬木町2174番地
自己評価作成日	平成24年10月10日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	※「介護サービス情報の公表」制度にて、基本情報を公表している場合のみ、ここに記載
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成 24 年 11 月 15 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者の皆様には、個別に応じて起立運動・滑車・電気治療等のリハビリメニューがあり、出来る限り毎日継続して行って頂いている。リハビリを行うことにより、筋力・上下肢維持・向上に努めている。またリハビリを毎日継続して行うことで生活に張りが出て意欲の向上につなげている。また地域・施設内の行事の参加することで、地域の方々との交流を図っている。季節感を味わっていただけるように、毎月、外出、外食を計画し取り組んでいる。また誕生日会では、職員が出し物をしたり、ボランティアの慰問を依頼するなどして利用者さんに楽しい時間を過ごして頂けるよう支援している。今後は、地域の方々にも協力していただき、行き来できる環境を作って行きたい。地域の中のアトラス馬木としてアトラス馬木から地域へ発信できる事等を見つけて今まで以上に地域との関わりを深めて行きたい。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は個人を尊重し地域の中で共に暮らして行けるように、またその人らしい生活ができるよう支援に努めている。自治会に加入して地域の行事に積極的に参加し、また事業所の駐車場を開放し中山町物産展を開き、地域住民との交流を深めている。同法人内の事業所間での交流や季節に合わせて外出したり、外食を楽しむ等、頻回に外出を楽しんでいる。リハビリ室を設け多種のリハビリ機器を揃えて、個別メニューに沿ってリハビリを行い健康維持と向上に努めている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

(別表第1の2)

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- I. 理念に基づく運営
- II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

● 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

● 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

● 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)

● 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

● 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。

● チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 アトラス 馬木

(ユニット名) Aユニット

記入者(管理者)

氏名 菅谷 誠

評価完了日 平成24年 10月 10日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

【セル内の改行は、「Altキー」+「Enterキー」です】

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価) 地域の中で共に地域の方々と暮らしていける事、その人らしい生活を送れる事を理念にあげ、職員全員が理念を共有し、実践につなげている。	
			(外部評価) 開所時に作成した理念を一度見直して、「地域の中で共に暮らしていける。また個人を尊重しその人らしい生活を支援する。」として現在も継続している。理念は玄関と事務所、ユニット入口に掲示して出勤時にそれぞれが確認している。また新人教育で説明したり勉強会で話し合い実践につなげている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) 地域行事(夏祭り、秋祭り、運動会、掃除、防災訓練等)に参加し、また施設行事にも地域の方々に声をかけ参加して頂き、地域と事業者(利用者)のつながり、関わりを大切にしている。散歩時の挨拶、会話の中でも、地域との交流は日常的に出来ている。	
			(外部評価) 自治会に加入し、夏祭りや秋祭り、市民大清掃や運動会等地域の行事に参加し、事業所の行事にも参加してもらっている。2週間に1回、利用者と一緒に公園の清掃を行い、また事業所の駐車場で中山町物産展を開き地域の人たちと交流を図っている。職員は「あいさつ」を心がけており、気軽に声をかけ合い交流を深めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) 定期的で開催している運営推進会議や講習会の中で、認知症の人の理解や支援方法を伝達、報告している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	<p>(自己評価) 2か月毎の運営推進会議に、町内会長や公民館長、民生委員、介護保険課の方、地域の駐在さん、他のグループホームの方、また家族の方にも参加していただき、利用者やサービスの実際、評価への取り組みとその結果についても報告を行い、地域の方、他のGHの方の意見を取り入れ、サービス向上に生かしている。</p> <p>(外部評価) 運営推進会議は2か月に1回、利用者と町内会長、民生委員、市役所職員、地域包括支援センター職員、他グループホーム職員等、多数の参加を得て開催している。事業所の行事報告や議題をあげて、活発な意見交換を行っている。事業所の職員も交替で参加し、出された意見をサービス向上に活かしている。</p>	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	<p>(自己評価) 介護保険課の方、地域包括の方に運営推進会議等に、参加していただき、新しい情報を提供していただきながら協力関係を築くように取り組んでいる。</p> <p>(外部評価) 市役所職員や地域包括支援センター職員には運営推進会議に毎回参加していただき、意見やアドバイスももらっている。また事業所連絡会に参加して情報交換を行っている。</p>	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	<p>(自己評価) 身体拘束についてマニュアルを作成し職員皆が十分理解をした上で、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。危険を伴う方については事前にご家族の方へ説明を行い、理解を頂いた上で期間を決めて実践している。玄関の施錠は、防犯対策として夜間のみ施錠している。</p> <p>(外部評価) 自由に動ける環境作りに努め玄関は施錠をせず、外に出て行く利用者は見守りを行い、希望に対してはすぐに対応するように心がけている。職員の勉強会でテーマをあげて話し合い、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。</p>	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 虐待について職員は皆周知しており、勉強会などで再確認する機会を持ち、身体的、精神的虐待防止に向けて取り組んでいる。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 地域権利擁護事業や成年後見制度について、職員皆が理解しており、必要に応じて活用されている方も利用者の中でのいます。制度を活用できるように、関係者等と協力して支援している。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 入所する前や改定時に十分な説明を行い、利用者や家族の不安訴えを聞き、家族の理解、納得を得た上で契約、または解約を行っている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 家族の面会のない方もあり全員の意見は得られないが、家族会を開催したり、常に利用者、家族の声を聞き入れ、不満、苦情等の声に対して解決出来るように努めている。また、重要事項説明書等には外部者への連絡先等も示している。 (外部評価) 家族等に面会時に声をかけ、意見や要望等を聞いている。担当者が一人ひとりの日常生活の様子や健康状態を記載した報告書やホームだよりを郵送し、意見や要望等気軽に言ってもらえるよう工夫している。また、家族会を年2回行事に合わせて開催しているが、参加者が少なく意見を集約するまでには至っていない。	事業所の取組みや利用者の生活状況をより多くの家族に知ってもらうために、運営推進会議や家族会の開催方法等を見直し、検討を望みたい。また、出された意見等をサービスに反映させていく取組みに期待したい。

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 定期的に職員間での、ミーティングを行い、職員個々の意見として、改善提案書などを書いてもらい、皆で検討し、改善に努めている。	
			(外部評価) 代表者と管理者は職員との交流を大切にしており気軽に相談できる関係ができています。毎月1回、職員会を開催している。事前に職員全員が改善提案書を提出し、それを基に管理者、ユニットリーダーが議題を決定する等、職員の意見や提案を聞く機会を設け反映させている。外部研修にも自由に参加することができ、参加者はレポートを作成し職員会で報告している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 職員個々の条件に応じ、勤務時間の調整、就業時間内勤務の徹底を行い各自が向上心を持って働けるように職場環境・条件の整備に努めている。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 施設内では、毎月勉強会を開いたり、個々に応じ研修会への参加を行ったり地域で行われる研修会への参加等を行っており、職員のレベルアップに努めている。職員がそれぞれ資格所得に努めている。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 他のグループホームの企画するお茶会や祭り、運営推進会議の参加を行い、交流出来る機会を持つと共に、ネットワーク作り相互訪問等の活動を通じてサービスの向上に努めている。	
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 入所前に本人と面会し、困っている事、不安なこと、要望を傾聴し、よりお互いに信頼できる環境を作っている。利用者の声に出来る限り答えられるよう努めている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等 が困っていること、不安なこと、要望等に 耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 本人と同様に、事前によく話し合いを行い、困って いる事、不安な事、要望を聞き入れ納得していただ いた上で信頼関係づくりに努めている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と 家族等が「その時」まず必要としている支 援を見極め、他のサービス利用も含めた対 応に努めている	(自己評価) 本人と家族に、事前によく話し合いを行い、必要に 応じた対応ができる体制をとるようにしている。本人 と家族の要求に違いがあったり、GHの入所とは違 いのある場合は別のサービスがある事を知らせ、相 談に乗っている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場にお かず、暮らしを共にする者同士の関係を築 いている	(自己評価) 日々の生活を共にする中で、教えてもらったり、支 援したりして喜怒哀楽を共感出来る関係を築いて いる。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場にお かず、本人と家族の絆を大切にしながら、 共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 施設の行事にも、家族の方に参加していただき、利 用者の方と一緒に楽しめる環境を作ると共に、家 族が困った時は職員が協力し、職員も家族に協 力を依頼できる体制を作っている。毎月のお手紙 で家族にその月の状態や、行ったことを報告し理 解を得ている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人 や場所との関係が途切れないよう、支援に 努めている	(自己評価) 本人の希望を聞き入れ、馴染みの美容室に行か れたり、近くのスーパーなどへ行き声をかけて 頂いたりして馴染みの関係が途切れないよう に支援している。また個人的にも出来る限り 望みが叶えられるように支援している。	
			(外部評価) 入居前に行っていた美容室に知人が連れて行 ってくれたり、近所の散髪屋が来てくれたり、 以前からの関係が継続している。親族の面会 時はゆっくりできるように配慮し、馴染みの 関係が継続できるように支援している。また 中山特産品展を設け関係者や地域の人との 新しい馴染みの関係ができています。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 常に全体の把握に努め、互いの関係を考慮したレクリエーション活動への参加等を働き掛け、孤立しない関係作りを行っているが、何かトラブルもあり、職員が利用者の状態を理解し良い関わり合いが出来るよう努めている。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 退所されても関係が保たれているよう、ご家族と連絡を取り合ったりして、施設の行事等に快く来て下さり、一緒に参加されたりして、これまでの関係性を大切にしている。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 毎日の生活の中で、本人の思いや、希望を把握し、その思いに添えるその人らしい生活を送って頂けるよう取り組んでいる。	
			(外部評価) 日常会話の中から聞き取ったり、自己決定しやすい声かけを工夫し希望を確認したり、また面会時に家族から希望を聞き取り一人ひとりの思いの把握に努めている。困難な場合は表情から思いをくみ取り、本人本位に検討している。得た情報はパソコンに入力し職員全員が共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) センター方式を活用し、入所時にご家族を交え、これまでの生活歴、好きなもの等、情報収集を行い入所されてからの生活に反映していけるように支援している。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 一人ひとりの生活レベルに応じて、無理なく生活できるようにしている。休みたいときはゆっくりしていただき、食事、入浴等、出来ることはして頂いている。また、その日の変化に気づき対応できるように努めている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>(自己評価) 計画作成担当者の指示のもと、関係する職員が集まり、その方にあった介護計画の作成を介護支援専門員と相談し、本人、家族、必要な方の声を聞きより良い生活が出来るよう計画作成している。状態の変化に伴い計画の立て直しをしている。</p> <p>(外部評価) 介護計画は計画作成担当者が作成し、職員に回覧している。計画に沿った支援経過を記録しケアマネジャーがモニタリングを行っている。担当者会議は家族やユニットリーダー、職員が参加して話し合い、現状に即した介護計画になっている。</p>	
27		<p>○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>(自己評価) 日々の様子やケアの実践・結果気づきを個別に記録している。職員間で情報を共有し意見を出し、再アセスメントし介護計画の見直しに活かしている。</p>	
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 本人や家族の状況、その都度のニーズへの対応、一人ひとりにとって良い方法へのサービスを考慮し取り組んでいる。リハビリ室や特浴、畑、愛犬の飼育などがあり、個人の状態、要望に応じ柔軟に対応している。</p>	
29		<p>○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>(自己評価) 年間を通して地域の行事への参加、近くのお店への買い物、ボランティアなどの取り組みから体験し喜びや楽しみを感じることが出来ている。</p>	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	<p>(自己評価) 協力医療機関と連携関係にあり、必要に応じた受診を 行っている。本人及び、家族の意見や要望を尊重し、 かかりつけ医による継続的な医療を受けられるよう支 援している。</p> <p>(外部評価) 週1回、訪問看護の健康チェックと月2回の協力医の 往診がある。専門医の受診が必要な時は協力医の紹介 のもと家族が同行して受診している。家族が同行でき ない時は職員が対応している。受診後は家族や協力 医、事業所が連携して内容を共有し、安心して医療を 受ける事ができている。</p>	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	<p>(自己評価) 介護職員は常に利用者の変化を観察し、情報や気づき を看護職員に報告、看護職員はその変化に対応し、医 師との相談、連携を行い必要時は受診や看護を受けら れるよう支援している。</p>	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療でき るように、また、できるだけ早期に退院でき るように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	<p>(自己評価) 利用者が入院されて場合は、こまめに面会に行くな ど、安心して頂けるように対応し、家族と相談しなが ら、また早期退院に向けて病院関係者（医師・看護 師）との情報交換、相談を行っている。</p>	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	<p>(自己評価) 入所の前に終末期についてまた重度化した場合につい ての話し合いを行っており、職員全員に周知してい る。終末期のあり方について、本人家族の希望を聞 き、施設で出来ることを医療機関とも相談し、チーム 全体で支援に取り組んでいる。</p> <p>(外部評価) 看取りに関する指針を作成し、入居時に事業所での支 援内容を説明している。重度化に合わせて再確認し利 用者や家族、医師、看護師、職員等の関係者が密に連 携を図り要望に沿って安らかに最期を迎えられるよう 支援している。看取り後は職員から家族に手紙を出す など、配慮あるかわりをしている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 急変時に備えてその対応、対処法を定期的に講習し実践力を身につけている。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 定期的に避難訓練、防災訓練を行っており、職員に皆があらゆる方法を心得ている。消防署も近いので協力体制は出来ている。地域の方にも避難訓練に参加していただき、災害時の協力はお願いしている。	
			(外部評価) 防災訓練は年2回、夜間と昼間の想定で行っている。事業所の平面図を事務所に掲示し、緊急連絡網や避難経路、避難場所の確認や防災責任者を決めて防災設備の点検を定期的に行っている。また管理者は防災士として地域の自主防災組織に加入しており、地域の協力体制がある。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 利用者一人ひとりの生活レベルに応じて、入浴、排泄、食事等の介助を行っており、プライバシーを損ねることのないよう言葉かけ、呼び名、敬語などにも配慮している。	
			(外部評価) プライバシーについて年間計画に組み込み勉強会で話し合っている。月1回のチーフ会でも話し合い職員に申し送りをしている。一人ひとりに合った呼び方や声かけを行い、入室時はノックして入る等プライバシーに配慮した対応をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 日常生活の中でコミュニケーションを取りながら、利用者の表情や反応を観察し、その思いや希望を表せるような対応を心がけ、自己決定できるように働きかけている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 日々の生活の中で、強制するのではなく本人の希望を優先し、一人ひとりのペースを大切にし、本人の過ごしやすい環境作りを支援している。外出等も参加希望を聞き本人の意思を大切にしている。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) おしゃれや身だしなみを通して、生活の中での楽しさを感じる事が出来る様、本人の好みを主にしながら支援している。本人の意見が聞けない方は、家族から以前の好みを聞き、馴染みの装いができるよう心がけている。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 一人ひとりの声を聞き、メニューの参考にし、また外食等を行い食事を楽しんで頂ける様、配慮している。また、準備や片付け等、出来る利用者には手伝って頂いている。	
			(外部評価) 食事担当者が2週間毎に献立を立て、職員が週2回買い出しに行っている。手伝いの時の会話や食事摂取量から好みを把握しメニューに活かしている。利用者と一緒に育てた旬の野菜を使用、ユニット毎に調理し、匂い等で食欲を高め職員と一緒に和やかな雰囲気の中で食べる事ができている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 利用者個々の摂取量、水分出納量を把握し、1日量を確保できるように支援している。一人ひとりに応じて刻み食や補助食品を提供したり、水分も摂取しやすいように提供している。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 一人ひとりの口腔状態に応じ口腔ケアを毎食後行っている。一人で出来ない方は介助して行い、自分で出来る方は見守りで対応している。義歯を使用している方は、義歯用歯ブラシを使用し、週に3回定期的に消毒も行っている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 一人ひとりの排泄パターンを排泄チェック表を用い職員皆が把握し出来るだけトイレでの排泄が出来、個々に合わせた誘導、声かけを行い、自立に向けた支援を行っている。尿意便意の訴えの出来ない利用者については時間ごとに定期的に確認し交換を行っている。	
			(外部評価) 排泄チェック表でパターンを把握し、自立に向けたトイレでの排泄を支援している。便秘の方はオリーブオイルを大きじ1杯食事と一緒に食べてもらう等、薬に頼らない自然な排便を促している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 便秘に関する理解は皆周知しており、個々の便秘の原因を確認し、食事メニューの検討、水分、散歩やリハビリ、運動等を行い、便秘予防に取り組んでいる。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 入浴日は決まっているが、一人ひとりの希望、タイミングは出来るだけ合わせるように配慮している。また気持ちの良い入浴を楽しめるように心がけている。	
			(外部評価) 入浴は週3回実施し、時間については利用者の希望に合わせて対応している。入浴の苦手な利用者にはタイミングを見て声かけしている。脱衣場を暖め浴室との温度差に配慮し、特殊浴槽を使用する利用者もあり、一人づつゆっくり話をしながら個々に応じた入浴の支援を行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 個人の意見を尊重しゆっくり過ごせる自由な時間を設けている。必要な休息、睡眠を支援している。就寝時も本人の希望に合わせて声かけ、誘導を行っている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 服薬のマニュアルを作成し、職員皆が周知しており、利用者の処方薬について、目的、副作用等は理解している。自力で服薬出来ない方は介助している。症状に変化が見られたときは、主治医と相談しその症状に応じた対応が出来るように努めている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 利用者個々の出来ること出来ないことを把握しており、簡単な役割を持って頂くことにより、生活に張り合いを持って頂いている。個々に応じカラオケをしたり、カルタ、オセロをしたり、気分転換を図れる支援をしている。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) その日の状態、状況に応じ散歩、買い物などの気分転換を行っている。また、外出場所は、それぞれの希望を聞き配慮して上で計画している。地域交流会などにも参加したりしている。	
			(外部評価) 事業所の周りを散歩したり、犬の散歩や公園へ行ったりコンビニに買い物に行ったり、日常的に外出することができている。また福祉車両を使用して外食したり季節に合わせてぶどう狩りやウエルピア伊予、菊花展等、歩いて行けない所にも頻回に外出して楽しんでいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 本人の希望に応じ、欲しいものがあれば購入できるように支援している。現在は、お金は施設管理にしており自分で所持している利用者はいない。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 家族の制限がない限り、本人の希望に応じて電話や気持ちの伝達などを、その都度配慮して支援している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>(自己評価) 毎日の掃除により衛生管理を徹底している。トイレには芳香剤を設置し、汚染時には速やかに消毒、掃除を行っている。温度、湿度、明るさなどの環境整備を配慮し、季節の花を飾ったり、金魚を飼ったりして、生活感、季節感が感じられ、居心地良く過ごせる工夫をしている。</p> <p>(外部評価) 台所から居室やリビングが見渡せて、利用者は自由な暮らしを見守られて安心感がある。利用者と一緒に季節の飾りつけをして気持ちよく過ごすことができている。職員は毎日、当番制で掃除を行い、4か月に1回はワックスがけとバルサンをたき快適な環境整備に努めている。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>(自己評価) リビング、居室等、自由に過ごして頂いている。利用者同士で仲の良い方は近くで過ごせるような工夫をしている。</p>	
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>(自己評価) 入所の際は、本人の馴染みの物の持ち込みをお願いしており、本人がなるべく抵抗なく生活して頂けるような環境作りを行い、本人が居心地良く過ごせるような工夫をしている。</p> <p>(外部評価) 居室にはベッドや整理タンス、エアコン、布団一式を常備し、利用者の身体状況に合わせた配置に配慮している。使い慣れた馴染みの物を持ち込み、写真やハーモニカ、自慢の物を飾り一人ひとりが居心地よく過ごすことができている。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>(自己評価) 生活の中で、歩行器やシルバーカーを使用して自立した歩行が出来るように環境整備し転倒防止に努めている。また、安心して自立した生活を送れるよう、トイレ誘導用の貼り紙等工夫している。</p>	

(別表第1の3)

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3870103250
法人名	株式会社 ユニケア
事業所名	アトラス馬木
所在地	松山市馬木町2174番地
自己評価作成日	平成24年10月15日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	※「介護サービス情報の公表」制度にて、基本情報を公表している場合のみ、ここに記載
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成 24 年 11 月 15 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者の皆様には、個別に応じて起立運動・滑車・電気治療等のリハビリメニューがあり、出来る限り毎日継続して行って頂いている。リハビリを行うことにより、筋力・上下肢維持・向上に努めている。またリハビリを毎日継続して行うことで生活に張りが出て意欲の向上につなげている。また地域・施設内の行事の参加することで、地域の方々との交流を図っている。季節感を味わっていただけるように、毎月、外出、外食を計画し取り組んでいる。また誕生日会では、職員が出し物をしたり、ボラティアの慰問を依頼するなどして利用者さんに楽しい時間を過ごして頂けるよう支援している。今後は、地域の方々にも協力していただき、行き来できる環境を作って行きたい。地域の中のアトラス馬木としてアトラス馬木から地域へ発信できる事等を見つけて今まで以上に地域との関わりを深めて行きたい。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は個人を尊重し地域の中で共に暮らして行けるように、またその人らしい生活ができるよう支援に努めている。自治会に加入して地域の行事に積極的に参加し、また事業所の駐車場を開放し中山町物産展を開き、地域住民との交流を深めている。同法人内の事業所間での交流や季節に合わせて外出したり、外食を楽しむ等、頻回に外出を楽しんでいる。リハビリ室を設け多種のリハビリ機器を揃えて、個別メニューに沿ってリハビリを行い健康維持と向上に努めている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

(別表第1の2)

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- I. 理念に基づく運営
- II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。
- チーム＝一人の人の関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 アトラス馬木

(ユニット名) Bユニット

記入者(管理者)

氏名 菅谷 誠

評価完了日 平成24年 年 10月 15 日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

【セル内の改行は、「Altキー」+「Enterキー」です】

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価) 地域の中で共に地域の方々と暮らしていける事、その人らしい生活を送れる事を理念にあげ、職員全員が理念を共有し、実践につなげている。	
			(外部評価) 開所時に作成した理念を一度見直して、「地域の中で共に暮らしていける。また個人を尊重しその人らしい生活を支援する。」として現在も継続している。理念は玄関と事務所、ユニット入口に掲示して出勤時にそれぞれが確認している。また新人教育で説明したり勉強会で話し合い実践につなげている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) 地域行事(夏祭り、秋祭り、運動会、掃除、防災訓練等)に参加し、また施設行事にも地域の方々に声をかけ参加して頂き、地域と事業者(利用者)のつながり、関わりを大切にしている。散歩時の挨拶、会話の中でも、地域との交流は日常的に出来ている。	
			(外部評価) 自治会に加入し、夏祭りや秋祭り、市民大清掃や運動会等地域の行事に参加し、事業所の行事にも参加してもらっている。2週間に1回、利用者と一緒に公園の清掃を行い、また事業所の駐車場で中山町物産展を開き地域の人たちと交流を図っている。職員は「あいさつ」を心がけており、気軽に声をかけ合い交流を深めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) 定期的で開催している運営推進会議や講習会の中で、認知症の人の理解や支援方法を伝達、報告している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	<p>○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>(自己評価) 2か月毎の運営推進会議に、町内会長や公民館長、民生委員、介護保険課の方、地域の駐在さん、他のグループホームの方、また家族の方にも参加していただき、利用者やサービスの実際、評価への取り組みとその結果についても報告を行い、地域の方、他のGHの方の意見を取り入れ、サービス向上に生かしている。</p> <p>(外部評価) 運営推進会議は2か月に1回、利用者と町内会長、民生委員、市役所職員、地域包括支援センター職員、他グループホーム職員等、多数の参加を得て開催している。事業所の行事報告や議題をあげて、活発な意見交換を行っている。事業所の職員も交替で参加し、出された意見をサービス向上に活かしている。</p>	
5	4	<p>○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 介護保険課の方、地域包括の方に運営推進会議等に、参加していただき、新しい情報を提供していただきながら協力関係を築くように取り組んでいる。</p> <p>(外部評価) 市役所職員や地域包括支援センター職員には運営推進会議に毎回参加していただき、意見やアドバイスももらっている。また事業所連絡会に参加して情報交換を行っている。</p>	
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 身体拘束についてマニュアルを作成し職員皆が十分理解をした上で、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。危険を伴う方については事前にご家族の方へ説明を行い、理解を頂いた上で期間を決めて実践している。玄関の施錠は、防犯対策として夜間のみ施錠している。</p> <p>(外部評価) 自由に動ける環境作りに努め玄関は施錠をせず、外に出て行く利用者は見守りを行い、希望に対してはすぐに対応するように心がけている。職員の勉強会でテーマをあげて話し合い、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。</p>	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 虐待について職員は皆周知しており、勉強会などで再確認する機会を持ち、身体的、精神的虐待防止に向けて取り組んでいる。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 地域権利擁護事業や成年後見制度について、職員皆が理解しており、必要に応じて活用されている方も利用者の中でのいます。制度を活用できるように、関係者等と協力して支援している。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 入所する前や改定時に十分な説明を行い、利用者や家族の不安訴えを聞き、家族の理解、納得を得た上で契約、または解約を行っている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 家族の面会のない方もあり全員の意見は得られないが、家族会を開催したり、常に利用者、家族の声を聞き入れ、不満、苦情等の声に対して解決出来るように努めている。また、重要事項説明書等には外部者への連絡先等も示している。	
			(外部評価) 家族等に面会時に声をかけ、意見や要望等を聞いている。担当者が一人ひとりの日常生活の様子や健康状態を記載した報告書やホームだよりを郵送し、意見や要望等気軽に言ってもらえるよう工夫している。また、家族会を年2回行事に合わせて開催しているが、参加者が少なく意見を集約するまでには至っていない。	事業所の取組みや利用者の生活状況をより多くの家族に知ってもらうために、運営推進会議や家族会の開催方法等を見直し、検討を望みたい。また、出された意見等をサービスに反映させていく取組みに期待したい。

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 定期的に職員間での、ミーティングを行い、職員個々の意見として、改善提案書などを書いてもらい、皆で検討し、改善に努めている。	
			(外部評価) 代表者と管理者は職員との交流を大切にしており気軽に相談できる関係ができています。毎月1回、職員会を開催している。事前に職員全員が改善提案書を提出し、それを基に管理者、ユニットリーダーが議題を決定する等、職員の意見や提案を聞く機会を設け反映させている。外部研修にも自由に参加することができ、参加者はレポートを作成し職員会で報告している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 職員個々の条件に応じ、勤務時間の調整、就業時間内勤務の徹底を行い各自が向上心を持って働けるように職場環境・条件の整備に努めている。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 施設内では、毎月勉強会を開いたり、個々に応じ研修会への参加を行ったり地域で行われる研修会への参加等を行っており、職員のレベルアップに努めている。職員がそれぞれ資格所得に努めている。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 他のグループホームの企画するお茶会や祭り、運営推進会議の参加を行い、交流出来る機会を持つと共に、ネットワーク作り相互訪問等の活動を通じてサービスの向上に努めている。	
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 入所前に本人と面会し、困っている事、不安なこと、要望を傾聴し、よりお互いに信頼できる環境を作っている。利用者の声に出来る限り答えられるよう努めている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等 が困っていること、不安なこと、要望等に 耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 本人と同様に、事前によく話し合いを行い、困って いる事、不安な事、要望を聞き入れ納得していただ いた上で信頼関係づくりに努めている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と 家族等が「その時」まず必要としている支 援を見極め、他のサービス利用も含めた対 応に努めている	(自己評価) 本人と家族に、事前によく話し合いを行い、必要に 応じた対応ができる体制をとるようにしている。本人 と家族の要求に違いがあったり、GHの入所とは違 いのある場合は別のサービスがある事を知らせ、相 談に乗っている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場にお かず、暮らしを共にする者同士の関係を築 いている	(自己評価) 日々の生活を共にする中で、教えてもらったり、支 援したりして喜怒哀楽を共感出来る関係を築いて いる。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場にお かず、本人と家族の絆を大切にしながら、 共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 施設の行事にも、家族の方に参加していただき、利 用者の方と一緒に楽しめる環境を作ると共に、家 族が困った時は職員が協力し、職員も家族に協 力を依頼できる体制を作っている。毎月のお手紙 で家族にその月の状態や、行ったことを報告し理 解を得ている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人 や場所との関係が途切れないよう、支援に 努めている	(自己評価) 本人の希望を聞き入れ、馴染みの美容室に行か れたり、近くのスーパーなどへ行き声をかけて 頂いたりして馴染みの関係が途切れないよう に支援している。また個人的にも出来る限り 望みが叶えられるように支援している。	
			(外部評価) 入居前に行っていた美容室に知人が連れて行 ってくれたり、近所の散髪屋が来てくれたり、 以前からの関係が継続している。親族の面会 時はゆっくりできるように配慮し、馴染みの 関係が継続できるように支援している。また 中山特産品展を設け関係者や地域の人との 新しい馴染みの関係ができています。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 常に全体の把握に努め、互いの関係を考慮したレクリエーション活動への参加等を働き掛け、孤立しない関係作りを行っているが、何かトラブルもあり、職員が利用者の状態を理解し良い関わり合いが出来るよう努めている。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 退所されても関係が保たれているよう、ご家族と連絡を取り合ったりして、施設の行事等に快く来て下さり、一緒に参加されたりして、これまでの関係性を大切にしている。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 毎日の生活の中で、本人の思いや、希望を把握し、その思いに添えるその人らしい生活を送って頂けるよう取り組んでいる。	
			(外部評価) 日常会話の中から聞き取ったり、自己決定しやすい声かけを工夫し希望を確認したり、また面会時に家族から希望を聞き取り一人ひとりの思いの把握に努めている。困難な場合は表情から思いをくみ取り、本人本位に検討している。得た情報はパソコンに入力し職員全員が共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) センター方式を活用し、入所時にご家族を交え、これまでの生活歴、好きなもの等、情報収集を行い入所されてからの生活に反映していけるように支援している。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 一人ひとりの生活レベルに応じて、無理なく生活できるようにしている。休みたいときはゆっくりしていただき、食事、入浴等、出来ることはして頂いている。また、その日の変化に気づき対応できるように努めている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>(自己評価) 計画作成担当者の指示のもと、関係する職員が集まり、その方にあった介護計画の作成を介護支援専門員と相談し、本人、家族、必要な方の声を聞きより良い生活が出来るよう計画作成している。状態の変化に伴い計画の立て直しをしている。</p> <p>(外部評価) 介護計画は計画作成担当者が作成し、職員に回覧している。計画に沿った支援経過を記録しケアマネジャーがモニタリングを行っている。担当者会議は家族やユニットリーダー、職員が参加して話し合い、現状に即した介護計画になっている。</p>	
27		<p>○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>(自己評価) 日々の様子やケアの実践・結果気づきを個別に記録している。職員間で情報を共有し意見を出し、再アセスメントし介護計画の見直しに活かしている。</p>	
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 本人や家族の状況、その都度のニーズへの対応、一人ひとりにとって良い方法へのサービスを考慮し取り組んでいる。リハビリ室や特浴、畑、愛犬の飼育などがあり、個人の状態、要望に応じ柔軟に対応している。</p>	
29		<p>○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>(自己評価) 年間を通して地域の行事への参加、近くのお店への買い物、ボランティアなどの取り組みから体験し喜びや楽しみを感じることが出来ている。</p>	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	<p>(自己評価) 協力医療機関と連携関係にあり、必要に応じた受診を 行っている。本人及び、家族の意見や要望を尊重し、 かかりつけ医による継続的な医療を受けられるよう支 援している。</p> <p>(外部評価) 週1回、訪問看護の健康チェックと月2回の協力医の 往診がある。専門医の受診が必要な時は協力医の紹介 のもと家族が同行して受診している。家族が同行でき ない時は職員が対応している。受診後は家族や協力 医、事業所が連携して内容を共有し、安心して医療を 受ける事ができている。</p>	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	<p>(自己評価) 介護職員は常に利用者の変化を観察し、情報や気づき を看護職員に報告、看護職員はその変化に対応し、医 師との相談、連携を行い必要時は受診や看護を受けら れるよう支援している。</p>	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療でき るように、また、できるだけ早期に退院でき るように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	<p>(自己評価) 利用者が入院されて場合は、こまめに面会に行くな ど、安心して頂けるように対応し、家族と相談しなが ら、また早期退院に向けて病院関係者（医師・看護 師）との情報交換、相談を行っている。</p>	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	<p>(自己評価) 入所の前に終末期についてまた重度化した場合につい ての話し合いを行っており、職員全員に周知してい る。終末期のあり方について、本人家族の希望を聞 き、施設で出来ることを医療機関とも相談し、チーム 全体で支援に取り組んでいる。</p> <p>(外部評価) 看取りに関する指針を作成し、入居時に事業所での支 援内容を説明している。重度化に合わせて再確認し利 用者や家族、医師、看護師、職員等の関係者が密に連 携を図り要望に沿って安らかに最期を迎えられるよう 支援している。看取り後は職員から家族に手紙を出す など、配慮あるかわりをしている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 急変時に備えてその対応、対処法を定期的に講習し実践力を身につけている。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 定期的に避難訓練、防災訓練を行っており、職員に皆があらゆる方法を心得ている。消防署も近いので協力体制は出来ている。地域の方にも避難訓練に参加していただき、災害時の協力はお願いしている。	
			(外部評価) 防災訓練は年2回、夜間と昼間の想定で行っている。事業所の平面図を事務所に掲示し、緊急連絡網や避難経路、避難場所の確認や防災責任者を決めて防災設備の点検を定期的に行っている。また管理者は防災士として地域の自主防災組織に加入しており、地域の協力体制がある。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 利用者一人ひとりの生活レベルに応じて、入浴、排泄、食事等の介助を行っており、プライバシーを損ねることのないよう言葉かけ、呼び名、敬語などにも配慮している。	
			(外部評価) プライバシーについて年間計画に組み込み勉強会で話し合っている。月1回のチーフ会でも話し合い職員に申し送りをしている。一人ひとりに合った呼び方や声かけを行い、入室時はノックして入る等プライバシーに配慮した対応をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 日常生活の中でコミュニケーションを取りながら、利用者の表情や反応を観察し、その思いや希望を表せるような対応を心がけ、自己決定できるように働きかけている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 日々の生活の中で、強制するのではなく本人の希望を優先し、一人ひとりのペースを大切にし、本人の過ごしやすい環境作りを支援している。外出等も参加希望を聞き本人の意思を大切にしている。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) おしゃれや身だしなみを通して、生活の中での楽しさを感じる事が出来る様、本人の好みを主にしながら支援している。本人の意見が聞けない方は、家族から以前の好みを聞き、馴染みの装いができるよう心がけている。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 一人ひとりの声を聞き、メニューの参考にし、また外食等を行い食事を楽しんで頂ける様、配慮している。また、準備や片付け等、出来る利用者には手伝って頂いている。	
			(外部評価) 食事担当者が2週間毎に献立を立て、職員が週2回買い出しに行っている。手伝いの時の会話や食事摂取量から好みを把握しメニューに活かしている。利用者と一緒に育てた旬の野菜を使用、ユニット毎に調理し、匂い等で食欲を高め職員と一緒に和やかな雰囲気の中で食べる事ができている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 利用者個々の摂取量、水分出納量を把握し、1日量を確保できるように支援している。一人ひとりに応じて刻み食や補助食品を提供したり、水分も摂取しやすいように提供している。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 一人ひとりの口腔状態に応じ口腔ケアを毎食後行っている。一人で出来ない方は介助して行い、自分で出来る方は見守りで対応している。義歯を使用している方は、義歯用歯ブラシを使用し、週に3回定期的に消毒も行っている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 一人ひとりの排泄パターンを排泄チェック表を用い職員皆が把握し出来るだけトイレでの排泄が出来、個々に合わせた誘導、声かけを行い、自立に向けた支援を行っている。尿意便意の訴えの出来ない利用者については時間ごとに定期的に確認し交換を行っている。	
			(外部評価) 排泄チェック表でパターンを把握し、自立に向けたトイレでの排泄を支援している。便秘の方はオリーブオイルを大きじ1杯食事と一緒に食べてもらう等、薬に頼らない自然な排便を促している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 便秘に関する理解は皆周知しており、個々の便秘の原因を確認し、食事メニューの検討、水分、散歩やリハビリ、運動等を行い、便秘予防に取り組んでいる。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 入浴日は決まっているが、一人ひとりの希望、タイミングは出来るだけ合わせるように配慮している。また気持ちのいい入浴を楽しめるように心がけている。	
			(外部評価) 入浴は週3回実施し、時間については利用者の希望に合わせて対応している。入浴の苦手な利用者にはタイミングを見て声かけしている。脱衣場を暖め浴室との温度差に配慮し、特殊浴槽を使用する利用者もあり、一人づつゆっくり話をしながら個々に応じた入浴の支援を行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 個人の意見を尊重しゆっくり過ごせる自由な時間を設けている。必要な休息、睡眠を支援している。就寝時も本人の希望に合わせて声かけ、誘導を行っている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 服薬のマニュアルを作成し、職員皆が周知しており、利用者の処方薬について、目的、副作用等は理解している。自力で服薬出来ない方は介助している。症状に変化が見られたときは、主治医と相談しその症状に応じた対応が出来るように努めている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 利用者個々の出来ること出来ないことを把握しており、簡単な役割を持って頂くことにより、生活に張り合いを持って頂いている。個々に応じカラオケをしたり、カルタ、トランプをしたり、気分転換を図れる支援をしている。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) その日の状態、状況に応じ散歩、買い物などの気分転換を行っている。また、外出場所は、それぞれの希望を聞き配慮して上で計画している。地域交流会などにも参加したりしている。	
			(外部評価) 事業所の周りを散歩したり、犬の散歩や公園へ行ったりコンビニに買い物に行ったり、日常的に外出することができている。また福祉車両を使用して外食したり季節に合わせてぶどう狩りやウエルピア伊予、菊花展等、歩いて行けない所にも頻回に外出して楽しんでいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 本人の希望に応じ、欲しいものがあれば購入できるように支援している。現在は、お金は施設管理にしており自分で所持している利用者はいない。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 家族の制限がない限り、本人の希望に応じて電話や気持ちの伝達などを、その都度配慮して支援している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>(自己評価) 毎日の掃除により衛生管理を徹底している。トイレには芳香剤を設置し、汚染時には速やかに消毒、掃除を行っている。温度、湿度、明るさなどの環境整備を配慮し、季節の花を飾ったり、金魚を飼ったりして、生活感、季節感が感じられ、居心地良く過ごせる工夫をしている。</p> <p>(外部評価) 台所から居室やリビングが見渡せて、利用者は自由な暮らしを見守られて安心感がある。利用者と一緒に季節の飾りつけをして気持ちよく過ごすことができている。職員は毎日、当番制で掃除を行い、4か月に1回はワックスがけとバルサンをたき快適な環境整備に努めている。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>(自己評価) リビング、居室等、自由に過ごして頂いている。利用者同士で仲の良い方は近くで過ごせるような工夫をしている。</p>	
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>(自己評価) 入所の際は、本人の馴染みの物の持ち込みをお願いしており、本人がなるべく抵抗なく生活して頂けるような環境作りを行い、本人が居心地良く過ごせるような工夫をしている。</p> <p>(外部評価) 居室にはベッドや整理タンス、エアコン、布団一式を常備し、利用者の身体状況に合わせた配置に配慮している。使い慣れた馴染みの物を持ち込み、写真やハーモニカ、自慢の物を飾り一人ひとりが居心地よく過ごすことができている。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>(自己評価) 生活の中で、歩行器やシルバーカーを使用して自立した歩行が出来るように環境整備し転倒防止に努めている。また、安心して自立した生活を送れるよう、トイレ誘導用の貼り紙等工夫している。</p>	

(別表第1の3)

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3870103250
法人名	株式会社 ユニケア
事業所名	アトラス馬木
所在地	松山市馬木町2174番地
自己評価作成日	平成24年10月20日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	※「介護サービス情報の公表」制度にて、基本情報を公表している場合のみ、ここに記載
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成 24 年 11 月 15 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者の皆様には、個別に応じて起立運動・滑車・電気治療等のリハビリメニューがあり、出来る限り毎日継続して行って頂いている。リハビリを行うことにより、筋力・上下肢維持・向上に努めている。またリハビリを毎日継続して行うことで生活に張りが出て意欲の向上につながっている。また地域・施設内の行事の参加することで、地域の方々との交流を図っている。季節感を味わっていただけるように、毎月、外出、外食を計画し取り組んでいる。また誕生日会では、職員が出し物をしたり、ボラティアの慰問を依頼するなどして利用者さんに楽しい時間を過ごして頂けるよう支援している。今後は、地域の方々にも協力していただき、行き来できる環境を作って行きたい。地域の中のアトラス馬木としてアトラス馬木から地域へ発信できる事等を見つけて今まで以上に地域との関わりを深めて行きたい。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は個人を尊重し地域の中で共に暮らして行けるように、またその人らしい生活ができるよう支援に努めている。自治会に加入して地域の行事に積極的に参加し、また事業所の駐車場を開放し中山町物産展を開き、地域住民との交流を深めている。同法人内の事業所間での交流や季節に合わせて外出したり、外食を楽しむ等、頻回に外出を楽しんでいる。リハビリ室を設け多種のリハビリ機器を揃えて、個別メニューに沿ってリハビリを行い健康維持と向上に努めている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

(別表第1の2)

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- I. 理念に基づく運営
- II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。
- チーム＝一人の人の関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取り組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 アトラス馬木

(ユニット名) Cユニット

記入者(管理者)

氏名 菅谷 誠

評価完了日 平成24年10月20日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

【セル内の改行は、「Altキー」+「Enterキー」です】

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価) 地域の中で共に地域の方々と暮らしていける事、その人らしい生活を送れる事を理念にあげ、職員全員が理念を共有し、実践につなげている。	
			(外部評価) 開所時に作成した理念を一度見直して、「地域の中で共に暮らしていける。また個人を尊重しその人らしい生活を支援する。」として現在も継続している。理念は玄関と事務所、ユニット入口に掲示して出勤時にそれぞれが確認している。また新人教育で説明したり勉強会で話し合い実践につなげている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) 地域行事(夏祭り、秋祭り、運動会、掃除、防災訓練等)に参加し、また施設行事にも地域の方々に声をかけ参加して頂き、地域と事業者(利用者)のつながり、関わりを大切にしている。散歩時の挨拶、会話の中でも、地域との交流は日常的に出来ている。	
			(外部評価) 自治会に加入し、夏祭りや秋祭り、市民大清掃や運動会等地域の行事に参加し、事業所の行事にも参加してもらっている。2週間に1回、利用者と一緒に公園の清掃を行い、また事業所の駐車場で中山町物産展を開き地域の人たちと交流を図っている。職員は「あいさつ」を心がけており、気軽に声をかけ合い交流を深めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) 定期的で開催している運営推進会議や講習会の中で、認知症の人の理解や支援方法を伝達、報告している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 2か月毎の運営推進会議に、町内会長や公民館長、民生委員、介護保険課の方、地域の駐在さん、他のグループホームの方、また家族の方にも参加していただき、利用者やサービスの実際、評価への取り組みとその結果についても報告を行い、地域の方、他のGHの方の意見を取り入れ、サービス向上に生かしている。	
			(外部評価) 運営推進会議は2か月に1回、利用者と町内会長、民生委員、市役所職員、地域包括支援センター職員、他グループホーム職員等、多数の参加を得て開催している。事業所の行事報告や議題をあげて、活発な意見交換を行っている。事業所の職員も交替で参加し、出された意見をサービス向上に活かしている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	(自己評価) 介護保険課の方、地域包括の方に運営推進会議等に、参加していただき、新しい情報を提供していただきながら協力関係を築くように取り組んでいる。	
			(外部評価) 市役所職員や地域包括支援センター職員には運営推進会議に毎回参加していただき、意見やアドバイスももらっている。また事業所連絡会に参加して情報交換を行っている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 身体拘束についてマニュアルを作成し職員皆が十分理解をした上で、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。危険を伴う方については事前にご家族の方へ説明を行い、理解を頂いた上で期間を決めて実践している。玄関の施錠は、防犯対策として夜間のみ施錠している。	
			(外部評価) 自由に動ける環境作りに努め玄関は施錠をせず、外に出て行く利用者は見守りを行い、希望に対してはすぐに対応するように心がけている。職員の勉強会でテーマをあげて話し合い、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 虐待について職員は皆周知しており、勉強会などで再確認する機会を持ち、身体的、精神的虐待防止に向けて取り組んでいる。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 地域権利擁護事業や成年後見制度について、職員皆が理解しており、必要に応じて活用されている方も利用者の中にいます。制度を活用できるように、関係者等と協力して支援している。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 入所する前や改定時に十分な説明を行い、利用者や家族の不安訴えを聞き、家族の理解、納得を得た上で契約、または解約を行っている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 家族の面会のない方もあり全員の意見は得られないが、家族会を開催したり、常に利用者、家族の声を聞き入れ、不満、苦情等の声に対して解決出来るように努めている。また、重要事項説明書等には外部者への連絡先等も示している。	事業所の取組みや利用者の生活状況をより多くの家族に知ってもらうために、運営推進会議や家族会の開催方法等を見直し、検討を望みたい。また、出された意見等をサービスに反映させていく取組みに期待したい。
			(外部評価) 家族等に面会時に声をかけ、意見や要望等を聞いている。担当者が一人ひとりの日常生活の様子や健康状態を記載した報告書やホームだよりを郵送し、意見や要望等気軽に言ってもらえるよう工夫している。また、家族会を年2回行事に合わせて開催しているが、参加者が少なく意見を集約するまでには至っていない。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 定期的に職員間での、ミーティングを行い、職員個々の意見として、改善提案書などを書いてもらい、皆で検討し、改善に努めている。	
			(外部評価) 代表者と管理者は職員との交流を大切にしており気軽に相談できる関係ができています。毎月1回、職員会を開催している。事前に職員全員が改善提案書を提出し、それを基に管理者、ユニットリーダーが議題を決定する等、職員の意見や提案を聞く機会を設け反映させている。外部研修にも自由に参加することができ、参加者はレポートを作成し職員会で報告している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 職員個々の条件に応じ、勤務時間の調整、就業時間内勤務の徹底を行い各自が向上心を持って働けるように職場環境・条件の整備に努めている。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 施設内では、毎月勉強会を開いたり、個々に応じ研修会への参加を行ったり地域で行われる研修会への参加等を行っており、職員のレベルアップに努めている。職員がそれぞれ資格所得に努めている。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 他のグループホームの企画するお茶会や祭り、運営推進会議の参加を行い、交流出来る機会を持つと共に、ネットワーク作り相互訪問等の活動を通じてサービスの向上に努めている。	
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 入所前に本人と面会し、困っている事、不安なこと、要望を傾聴し、よりお互いに信頼できる環境を作っている。利用者の声に出来る限り答えられるよう努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 本人と同様に、事前によく話し合いを行い、困っている事、不安な事、要望を聞き入れ納得していただいた上で信頼関係づくりに努めている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 本人と家族に、事前によく話し合いを行い、必要に応じた対応ができる体制をとるようにしている。本人と家族の要求に違いがあったり、GHの入所とは違いのある場合は別のサービスがある事を知らせ、相談に乗っている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 日々の生活を共にする中で、教えてもらったり、支援したりして喜怒哀楽を共感出来る関係を築いている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 施設の行事にも、家族の方に参加していただき、利用者の方と一緒に楽しめる環境を作ると共に、家族が困った時は職員が協力し、職員も家族に協力を依頼できる体制を作っている。毎月のお手紙で家族にその月の状態や、行ったことを報告し理解を得ている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 本人の希望を聞き入れ、馴染みの美容室に行かれたり、近くのスーパーなどへ行き声をかけて頂いたりして馴染みの関係が途切れないように支援している。また個人的にも出来る限り望みが叶えられるように支援している。	
			(外部評価) 入居前に行っていた美容室に知人が連れて行ってくれたり、近所の散髪屋が来てくれたり、以前からの関係が継続している。親族の面会時はゆっくりできるように配慮し、馴染みの関係が継続できるように支援している。また中山特産品展を設け関係者や地域の人との新しい馴染みの関係ができています。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 常に全体の把握に努め、互いの関係を考慮したレクリエーション活動への参加等を働き掛け、孤立しない関係作りを行っているが、何かトラブルもあり、職員が利用者の状態を理解し良い関わり合いが出来るよう努めている。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 退所されても関係が保たれているよう、ご家族と連絡を取り合ったりして、施設の行事等に快く来て下さり、一緒に参加されたりして、これまでの関係性を大切にしている。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 毎日の生活の中で、本人の思いや、希望を把握し、その思いに添えるその人らしい生活を送って頂けるよう取り組んでいる。	
			(外部評価) 日常会話の中から聞き取ったり、自己決定しやすい声かけを工夫し希望を確認したり、また面会時に家族から希望を聞き取り一人ひとりの思いの把握に努めている。困難な場合は表情から思いをくみ取り、本人本位に検討している。得た情報はパソコンに入力し職員全員が共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) センター方式を活用し、入所時にご家族を交え、これまでの生活歴、好きなもの等、情報収集を行い入所されてからの生活に反映していけるように支援している。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 一人ひとりの生活レベルに応じて、無理なく生活できるようにしている。休みたいときはゆっくりしていただき、食事、入浴等、出来ることはして頂いている。また、その日の変化に気づき対応できるように努めている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) 計画作成担当者の指示のもと、関係する職員が集まり、その方にあった介護計画の作成を介護支援専門員と相談し、本人、家族、必要な方の声を聞きより良い生活が出来るよう計画作成している。状態の変化に伴い計画の立て直しをしている。	
			(外部評価) 介護計画は計画作成担当者が作成し、職員に回覧している。計画に沿った支援経過を記録しケアマネジャーがモニタリングを行っている。担当者会議は家族やユニットリーダー、職員が参加して話し合い、現状に即した介護計画になっている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 日々の様子やケアの実践・結果気づきを個別に記録している。職員間で情報を共有し意見を出し、再アセスメントし介護計画の見直しに活かしている。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) 本人や家族の状況、その都度のニーズへの対応、一人ひとりにとって良い方法へのサービスを考慮し取り組んでいる。リハビリ室や特浴、畑、愛犬の飼育などがあり、個人の状態、要望に応じ柔軟に対応している。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 年間を通して地域の行事への参加、近くのお店への買い物、ボランティアなどの取り組みから体験し喜びや楽しみを感じることが出来ている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	<p>(自己評価) 協力医療機関と連携関係にあり、必要に応じた受診を 行っている。本人及び、家族の意見や要望を尊重し、 かかりつけ医による継続的な医療を受けられるよう支 援している。</p> <p>(外部評価) 週1回、訪問看護の健康チェックと月2回の協力医の 往診がある。専門医の受診が必要な時は協力医の紹介 のもと家族が同行して受診している。家族が同行でき ない時は職員が対応している。受診後は家族や協力 医、事業所が連携して内容を共有し、安心して医療を 受ける事ができている。</p>	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	<p>(自己評価) 介護職員は常に利用者の変化を観察し、情報や気づき を看護職員に報告、看護職員はその変化に対応し、医 師との相談、連携を行い必要時は受診や看護を受けら れるよう支援している。</p>	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療でき るように、また、できるだけ早期に退院で きるように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	<p>(自己評価) 利用者が入院されて場合は、こまめに面会に行くな ど、安心して頂けるように対応し、家族と相談しなが ら、また早期退院に向けて病院関係者（医師・看護 師）との情報交換、相談を行っている。</p>	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	<p>(自己評価) 入所の前に終末期についてまた重度化した場合につい ての話し合いを行っており、職員全員に周知してい る。終末期のあり方について、本人家族の希望を聞 き、施設で出来ることを医療機関とも相談し、チーム 全体で支援に取り組んでいる。</p> <p>(外部評価) 看取りに関する指針を作成し、入居時に事業所での支 援内容を説明している。重度化に合わせて再確認し利 用者や家族、医師、看護師、職員等の関係者が密に連 携を図り要望に沿って安らかに最期を迎えられるよう 支援している。看取り後は職員から家族に手紙を出す など、配慮あるかわりをしている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 急変時に備えてその対応、対処法を定期的に講習し実践力を身につけている。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 定期的に避難訓練、防災訓練を行っており、職員に皆があらゆる方法を心得ている。消防署も近いので協力体制は出来ている。地域の方にも避難訓練に参加していただき、災害時の協力はお願いしている。	
			(外部評価) 防災訓練は年2回、夜間と昼間の想定で行っている。事業所の平面図を事務所に掲示し、緊急連絡網や避難経路、避難場所の確認や防災責任者を決めて防災設備の点検を定期的に行っている。また管理者は防災士として地域の自主防災組織に加入しており、地域の協力体制がある。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 利用者一人ひとりの生活レベルに応じて、入浴、排泄、食事等の介助を行っており、プライバシーを損ねることのないよう言葉かけ、呼び名、敬語などにも配慮している。	
			(外部評価) プライバシーについて年間計画に組み込み勉強会で話し合っている。月1回のチーフ会でも話し合い職員に申し送りをしている。一人ひとりに合った呼び方や声かけを行い、入室時はノックして入る等プライバシーに配慮した対応をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 日常生活の中でコミュニケーションを取りながら、利用者の表情や反応を観察し、その思いや希望を表せるような対応を心がけ、自己決定できるように働きかけている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 日々の生活の中で、強制するのではなく本人の希望を優先し、一人ひとりのペースを大切にし、本人の過ごしやすい環境作りを支援している。外出等も参加希望を聞き本人の意思を大切にしている。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) おしゃれや身だしなみを通して、生活の中での楽しさを感じる事が出来る様、本人の好みを主にしながら支援している。本人の意見が聞けない方は、家族から以前の好みを聞き、馴染みの装いができるよう心がけている。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 一人ひとりの声を聞き、メニューの参考にし、また外食等を行い食事を楽しんで頂ける様、配慮している。また、準備や片付け等、出来る利用者には手伝って頂いている。	
			(外部評価) 食事担当者が2週間毎に献立を立て、職員が週2回買い出しに行っている。手伝いの時の会話や食事摂取量から好みを把握しメニューに活かしている。利用者と一緒に育てた旬の野菜を使用、ユニット毎に調理し、匂い等で食欲を高め職員と一緒に和やかな雰囲気の中で食べる事ができている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 利用者個々の摂取量、水分出納量を把握し、1日量を確保できるように支援している。一人ひとりに応じて刻み食や補助食品を提供したり、水分も摂取しやすいように提供している。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 一人ひとりの口腔状態に応じ口腔ケアを毎食後行っている。一人で出来ない方は介助して行い、自分で出来る方は見守りで対応している。義歯を使用している方は、義歯用歯ブラシを使用し、週に3回定期的に消毒も行っている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 一人ひとりの排泄パターンを排泄チェック表を用い職員皆が把握し出来るだけトイレでの排泄が出来、個々に合わせた誘導、声かけを行い、自立に向けた支援を行っている。尿意便意の訴えの出来ない利用者については時間ごとに定期的に確認し交換を行っている。	
			(外部評価) 排泄チェック表でパターンを把握し、自立に向けたトイレでの排泄を支援している。便秘の方はオリーブオイルを大きじ1杯食事と一緒に食べてもらう等、薬に頼らない自然な排便を促している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 便秘に関する理解は皆周知しており、個々の便秘の原因を確認し、食事メニューの検討、水分、散歩やリハビリ、運動等を行い、便秘予防に取り組んでいる。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 入浴日は決まっているが、一人ひとりの希望、タイミングは出来るだけ合わせるように配慮している。また気持ちのいい入浴を楽しめるように心がけている。	
			(外部評価) 入浴は週3回実施し、時間については利用者の希望に合わせて対応している。入浴の苦手な利用者にはタイミングを見て声かけしている。脱衣場を暖め浴室との温度差に配慮し、特殊浴槽を使用する利用者もあり、一人づつゆっくり話をしながら個々に応じた入浴の支援を行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 個人の意見を尊重しゆっくり過ごせる自由な時間を設けている。必要な休息、睡眠を支援している。就寝時も本人の希望に合わせて声かけ、誘導を行っている。希望に応じてお昼寝もされている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 服薬のマニュアルを作成し、職員皆が周知しており、利用者の処方薬について、目的、副作用等は理解している。自力で服薬出来ない方は介助している。症状に変化が見られたときは、主治医と相談しその症状に応じた対応が出来るように努めている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 利用者個々の出来ること出来ないことを把握しており、簡単な役割を持って頂くことにより、生活に張り合いを持って頂いている。個々に応じカラオケをしたり、カルタ、トランプをしたり、気分転換を図れる支援をしている。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) その日の状態、状況に応じ散歩、買い物などの気分転換を行っている。また、外出場所は、それぞれの希望を聞き配慮して上で計画している。地域交流会などにも参加したりしている。	
			(外部評価) 事業所の周りを散歩したり、犬の散歩や公園へ行ったりコンビニに買い物に行ったり、日常的に外出することができている。また福祉車両を使用して外食したり季節に合わせてぶどう狩りやウエルピア伊予、菊花展等、歩いて行けない所にも頻回に外出して楽しんでいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 本人の希望に応じ、欲しいものがあれば購入できるように支援している。現在は、お金は施設管理にしており自分で所持している利用者はいない。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 家族の制限がない限り、本人の希望に応じて電話や気持ちの伝達などを、その都度配慮して支援している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>(自己評価) 毎日の掃除により衛生管理を徹底している。トイレには芳香剤を設置し、汚染時には速やかに消毒、掃除を行っている。温度、湿度、明るさなどの環境整備を配慮し、季節の花を飾ったり、生活感、季節感が感じられ、居心地良く過ごせる工夫をしている。</p> <p>(外部評価) 台所から居室やリビングが見渡せて、利用者は自由な暮らしを見守られて安心感がある。利用者と一緒に季節の飾りつけをして気持ちよく過ごすことができている。職員は毎日、当番制で掃除を行い、4か月に1回はワックスがけとバルサンをたき快適な環境整備に努めている。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>(自己評価) リビング、居室等、自由に過ごして頂いている。利用者同士で仲の良い方は近くで過ごせるような工夫をしている。</p>	
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>(自己評価) 入所の際は、本人の馴染みの物の持ち込みをお願いしており、本人がなるべく抵抗なく生活して頂けるような環境作りを行い、本人が居心地良く過ごせるような工夫をしている。</p> <p>(外部評価) 居室にはベッドや整理タンス、エアコン、布団一式を常備し、利用者の身体状況に合わせた配置に配慮している。使い慣れた馴染みの物を持ち込み、写真やハーモニカ、自慢の物を飾り一人ひとりが居心地よく過ごすことができている。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>(自己評価) 生活の中で、歩行器やシルバーカーを使用して自立した歩行が出来るように環境整備し転倒防止に努めている。また、安心して自立した生活を送れるよう、トイレ誘導用の貼り紙等工夫している。</p>	